

第 21 回 JOMF 海外医療情報交換会を東京で開催

2019 年 11 月 22 日(金)、学士会館 320 号室において、海外医療情報交換会が開催されました。拠点医師による報告に加えて、歯科医の田中健一先生から海外巡回健康相談の報告を行い、ゲストスピーカーとして東京医科大学病院渡航者医療センター 教授 濱田篤郎先生をお招きし、「海外勤務者の健康管理～30 年を振り返って」について講演いただきました。

【来場者】

総数 93 名が参加。うち、医療職の方々が 47 名、企業人事総務・海外部門の方々は 46 名。

【拠点医報告・海外巡回健康相談について】

1. マニラ日本人会診療所 菊地宏久先生

マニラより前のジャカルタ派遣時代の出来事の紹介(オーストラリア大使館テロ、インドネシア沖大地震・津波)に始まり、マニラでの活動の振り返り(洪水や台風の被災地への訪問の様子、2016 年当時の天皇皇后両陛下への拝謁など)をご紹介いただきました。

診療所の臨床報告では、1 年間の受診病態、入院病態、日本への紹介状の内訳をお話しいただきました。

トピックとして、デングと麻疹の増加、インフルエンザの年間の推移、薬についての問題点、結核感染で日本での紹介先に苦慮したケース、マニラでの各種疾病の検査の可否現状、水不足による生活への影響が感染症拡大の危機にもつながる環境問題などの現状を伺いました。長く取り組んでいる心肺蘇生セミナーについては、昨年に続き演劇の舞台も活用して重要性を訴えている活動例を紹介いただきました。劇団は自ら立ち上げたそうです。

フロアからは心肺停止による出張者の死亡例についての質問と偽薬の実態についての質問がありました。



2. シンガポール日本人会クリニック 日暮浩実先生

日本人会クリニックの活動報告のほか、シンガポールの医療制度の特徴を解説いただきました。

政府系では大きく分けて 3 つの地域別に医療施設のグループ(株式会社)があり、その中に中核となる大きな病院からポリクリニックまで含まれています。

保険制度により、経済的に余裕のある人には補助は無し、余裕がない人には補助有り、外国人には補助はしない、サービス業としての医療の特徴について、入院する場合の病室のランクや設備なども写真や図とともに具体的な説明をいただきました。

政府系のほかに外国人が多く受診する私立の施設があります。

自由診療ではあるものの法外な診療費を請求して裁判になったケースもあり、その詳細をご紹介いただきました。

強く印象に残ったのが、医療はサービス業であること。デング熱等の原因となる蚊の発生防止を怠った場合は



罰金の対象になるなど、罰金を科されるケースが非常に多いことから、シンガポール＝Fine city といわれる場合、fineという言葉のもう一つの意味である罰金の街という意味も浮き上がること、等々でした。とにかくシンガポールは「強い政府が仕切っている国」というのが毎年の報告を聞いての一貫した感想です。

3. シンガポール日本人会クリニック 心療内科 日暮真由美先生

日本人会クリニック 心療内科の活動報告では、年間の診療状況全般に加え、「心療内科外来を振り返って」というこれまでのまとめとしての報告がありました。

2004年度から2018年度まで、受診者は増加傾向にありました。その背景としては、心療内科へのアクセスがしやすくなったからかもしれないそうです。また2015年からのストレスチェック制度導入により会社も個人も早いうちに受診して治療、改善につなげようという意識が高まってきたのではないかと思います。駐在員のメンタルケアの制度は企業間の差が大きいと考えられるそうです。また、保険料が安いという理由から海外で現地の保険に加入する場合、メンタルケアがカバーされていないことがあるそうです。

「管理監督者向けメンタルヘルス研修マニュアル」による研修を受けた上司のもとで起きた部下のメンタル不調の例では、上司にとっても研修の実践は難しかったこととこの件がストレスになってしまったということでした。他には、帯同家族のキャリア中断の問題、大人の発達障害の診療希望が増加しているということを報告いただきました。

質疑応答では、「赴任する家族構成によるメンタル問題発症割合の違い」については、母数がないのでその差は不明ということです。「企業の行う具体的ケアにはどのようなものがあるか」については、最低でもストレスチェックを海外でも行う、加えて追加項目や面接の実施、産業医が海外へ面談に行くところもある、などの対応が紹介されました。



4. 北京天衛診療所 歯科 田中健一先生

長年にわたり当基金の海外巡回で歯科相談を実施されている田中先生より、相談会の意義や実践内容をお話いただきました。



相談会を実施する中で、公衆衛生活動として模型ではなく誰かのむし歯を見せたいということになり、左の写真のようなことが行われています。右端で田中先生が右手に自ら開発した口腔内カメラを持ち、左のスクリーン(黒い四角の部分)に口腔内が映されるというデモンストレーションの様子です。当日はいきなりの実演に驚いた方もいらしたと思いますが、海外の相談会では、この装置がお子様はじめご家族連れの相談者には人気です。

【ゲストスピーチ】

「海外勤務者の健康管理～30年を振り返って」

東京医科大学病院渡航者医療センター 教授 濱田篤郎先生

最後のゲストスピーカーとして、長年にわたり活動にご協力をいただいていた濱田篤郎先生による講演です。

タイトルの通り、30年にわたる海外勤務者の健康管理活動を振り返り、必要とされる専門領域の移り変わりや今後の対策まで、貴重な資料や写真とともに総括していただきました。当日は別のご予定が直前まであったにもかかわらず駆けつけてくださいました。ありがとうございます。



講演後は懇親会を開催、参加者と講師との有意義な交流の機会となりました。

海外のクリニックに勤務する医師にとって、会員企業の医療職・人事関係の方々とじかに交流することは日常の診療にも役立つ非常に貴重な機会でもあります。

今回で海外医療情報交換会の開催は終了します。

今までご参加くださった皆様、長い間ありがとうございました。